

プロジェクトを
選んで支援！



割り勘で
夢を
かなえよう！

事業指定助成プログラム

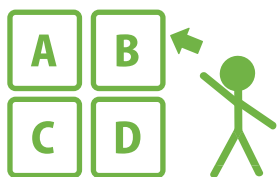
第12期

寄付募集期間

2019年1月22日(火)～3月15日(金)

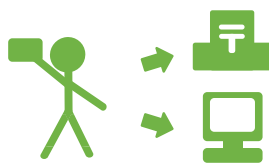
現金・郵便振替での受付は3/11(月)まで
3/12(火)～15(水)はクレジット決済のみ

①



このカタログの中から応援したい取り組みを選んでください。

②



同封の郵便振替用紙でゆうちょ銀行にて寄付をお願いします。インターネットからも可能です。

③



賛同者から集まった寄付により助成を行い取り組みを実行します。実施後は成果を報告します。



公益財団法人

みんなでつくる財団おかやま

OKAYAMA Share Foundation

神坂邸

古民家の再生と北前船の尻海の
まちづくりプロジェクト

目標 **530,000 円**

特定非営利活動法人
地域・空間プランニンググループ瀬戸内支部

江戸時代に北前船の廻船問屋として財を成した神坂邸を建築ワークショップで再生させ
コミュニティ再生の場・歴史的景観の啓蒙の場として活用していきます！

かつて栄えた港町で増える空き家・空き地。

歴史的・文化的価値のある建物の改修と活用を。

かつて北前船の寄港地として大変栄えた、瀬戸内市 尻海(しりみ)地区。広大な塩田での塩作りも行っていたことから、江戸時代には約500戸もの住居がありました。しかし、今では約300戸にまで減少し、空き家や空き地が増加したことで、まち全体に活気が無くなってきている印象を受けるようになりました。特に、旧道沿いはその傾向が顕著となっています。

空き家の中には、歴史的・文化的に大変価値があるものが複数あります。中でも、神坂家は江戸時代の北前船の廻船問屋として莫大な財を成し、その住まいである「神坂邸」は、このあたりでは非常に珍しい数寄屋造りの建物でした。内部の壁には弁柄(旧石器時代から使われた最古の顔料)が用いられていたり、お茶の炉が4つも作られていたり、細部に至るまで趣向が施されています。この屋敷は地域でも存在感を

放っていたようで、伊能忠敬も測量の際に滞在したとされています。

そんな「神坂邸」ですが、住人が不在となった現在、家屋全体に傷みが目立ち始めています。かつて北前船や塩田で栄えた町を象徴する「神坂邸」が朽ち、いずれ解体されて失われることは、尻海地区にとって大きな損失であるという考えにいたりました。

「神坂邸」の再生プロジェクトを通じた 文化伝承と地域活性化

「神坂邸」は旧道沿いにあり、この建物の再生が地域活性化のカギになると考えています。本事業では、2階建ての「神坂邸」の1階をコミュニティスペース、2階を展示室として活用し、地域交流と文化継承の場として活用し、受け継いでいくことを行います。

改修は、主に建築を学ぶ大学生をターゲットにしたワークショップを開催し、「神坂邸」の歴史的・文化的な価値を知ってもらうとともに、日本建築の手法にも触れてもらいます。宮大工をはじめとする専門家から建物や建具についてのレクチャーを受けることで、日本建築の技術的な価値を知ってもらう機会にしたいと考えています。

2階は比較的傷みの程度が軽いため、地域の住民や大学生たちを巻き込みながら、自力での改修予定です。1階は傷みが激しく、全体の基礎部分でもあるので、宮大工などの専門家による改修を行い、作庭も同時に行うことで、庭も含めた家全体の改修を進めます。

ワークショップは大学生から始めていきますが、徐々に地域住民や高校生、そして興味を持った地域外の人参加できるようにします。



神坂邸 座敷 ペンガラ塗りの壁



神坂邸 1 階



神坂邸 外観

尻海風土記館として地域交流と文化伝承の場、域外への情報発信・観光拠点とする。

改修後は2階を常設・企画展示室として、地域の歴史を伝える場とし、神坂家だけではなく、地区内の旧家から預かった貴重な書画などを展示し、いつでも見られるようにします。

1階は喫茶・食堂スペースとし、地域の人が気軽に集える拠点として、愛着を持って使用してもらえるところにしたいと思います。

そして、歴史的価値のある古民家の改修・活用モデルとして、地区外での認知度を高め、日本建築の素晴らしさを求めて訪れた人に尻海・錦海湾周辺の歴史も併せて知ってもらい、尻海・錦海湾の観光資源としての価値を高めていきます。その際の運営は、地域住民主導でできる仕組みを整えていきます。

また「豪商が建てた数寄屋造りの屋敷」という雰囲気似合うような、アートや音楽のイベントの開催や、地域の人によるクラフトワークショップなどを行うなど、地域の文化活動の発表の場としても、積極的に活用したいと考えています。

神坂邸の修復を軸にして、歴史と文化を受け継いだ、活気のある尻海地区を目指します。

空き地・空き家の改修事業を機に、尻海地区が北前船の寄港地として栄えたまちであることを、多くの方にぜひ知っていただきたいと考えています。「神坂邸」の改修をきっかけに、尻海地区の歴史や文化を再調査し、その価値を地域で共有して行きます。また、改修作業を通じて日本建築を学び、地域や気候に根ざした独自文化の持つ意味合いにも理解を深めていきます。

今回の事業をモデルケースとして、地区全体のまちづくりも考えていきたいと思います。荒れた耕作地は観光農園として活用し、空き地は庭園として再生。また空き家はゲストハウスやギャラリー・カフェに再生していける機運を高めていきます。

その運営を地元で行うことで、高齢者や若者の働く場をつくります。地域外から訪れる人が増え、尻海地区に魅力を感じてもらうことで、将来的に定住人口の増加につなげたいと考えています。

また、隣接する牛窓や長船等の既に知名度の高い観光地とつながることで、尻海地区を「観光客が来るまち」にし、将来インバウンドを誘致することも視野に入れています。地域の有形・無形の文化を活かしながら、観光と経済活動を考えたまちづくりを目指します。

現金・郵便振替・クレジット決済 対応！

MOTION GALLERY
クラウドファンディング・プラットフォーム

ご寄付のプランと特典

- 1) 1,000円プラン
報告会ご招待
- 2) 3,000円プラン
報告会ご招待、報告書の送付
- 3) 5,000円プラン
報告会ご招待、報告書の送付、現場見学会招待
- 4) 10,000円プラン
報告会ご招待、報告書の送付、交流スペース利用権（1日）



クレジット決済はこちら
<https://motion-gallery.net/projects/shirimi>

寄付金の使途について

今回のクラウドファンディングで調達する資金は建築ワークショップの材料費や情報発信のためのシンポジウム開催費にあてさせていただきます。

想定されるリスクとチャレンジ

チャレンジ

尻海地区のような状況は、全国各地であるかと思います。ワークショップの様子や再生の様子を発信することで、その土地土地の人たちのもつ愛着ある建物の再生に活かしていただきたいと思います。

リスク

工事の主要な部分は既に他の資金（補助金と自己資金）で実施することが決まっています。そのため、大きなリスクはありませんが、建築ワークショップで改修部分については、資金調達状況によって、内容の変更やスケジュールの調整が必要となる可能性があります。

プロジェクト実施団体

名称：特定非営利活動法人地域・空間プランニンググループ瀬戸内市支部
代表：支部長 藤井雅司
設立：2006年6月23日



神坂邸 2 階（日本建築専門家・大学教授・大学生等との打ち合わせの様子）



とつぽ 十坪住宅「徳島路太利」事業 修復保存

～残そうハンセン病隔離政策の歴史～

目標 500,000 円 ハンセンボランティア
「ゆいの会」

戦前、官民一体の「無らい県運動」が推進され、長島愛生園で始まった「とつぽ 十坪住宅」建設運動。ハンセン病隔離政策の歴史を後世に語り継ぐため、強制隔離政策の象徴的建築物である十坪住宅「徳島路太利」を市民の力で、修復・保存したい。

ハンセン病患者強制隔離政策の歴史。

我が国では、1907年制定の「癩予防ニ関スル件」により、ハンセン病患者の強制隔離が始まりました。1943年、ハンセン病はプロミンという治療薬により完治することが判明したにもかかわらず、強制隔離政策は1996年の「らい予防法」廃止まで継続されました。

2001年の熊本地方裁判所の判決で、ハンセン病患者の強制隔離政策に対する国の法的責任が認められました。しかし、ハンセン病問題の全面的解決に至るには、未だ様々な課題が残され、国との間での問題解決に向けた協議が今も続いています。

ハンセン病療養所の役割がやがて終焉を迎えることが予想されるなかで、ハンセン病療養所を永久保存し、ハンセン病隔離政策の歴史を伝えとともに、人権教育の場とすることが入所者の願いであり、重要な課題となっています。

国内初の国立ハンセン病療養所として長島愛生園が発足。定員を超えた隔離収容を進めるため長島愛生園で「十坪住宅」建設が始まった。

長島愛生園は、1930年に国内初の国立ハンセン病療養所として発足しました。翌31年3月27日に開拓患者85名が入園し、その直後から、同園では、定員超過の状態が続きましたが、さらに定員を超えた隔離収容を進めるため、長島愛生園で、光田健輔初代園長の提唱により始まった「十坪住宅運動」により、戦前、約150棟の「十坪住宅」が建設されました。

その後、大半は取り壊され、現在では、「梅ヶ香」「第4千代田」「母の家」「第2兵庫」「徳島路太利」の5棟を残すのみとなっています。しかし、これらの建物も老朽化が激しく、早急に修復保存に着手しなければ、近い将来、朽廃することになります。

「十坪住宅」は、元々、1、2組の夫婦の居住用に設計されましたが、その後も、長島愛生園には、定員を無視して多くの患者が隔離収容されたため、当初の計画とは異なり、5、6人の患者らが、この狭小な住宅で一緒に生活することを余儀なくされました。そのため、「十坪住宅」には、患者自身による増築の跡も残っています。

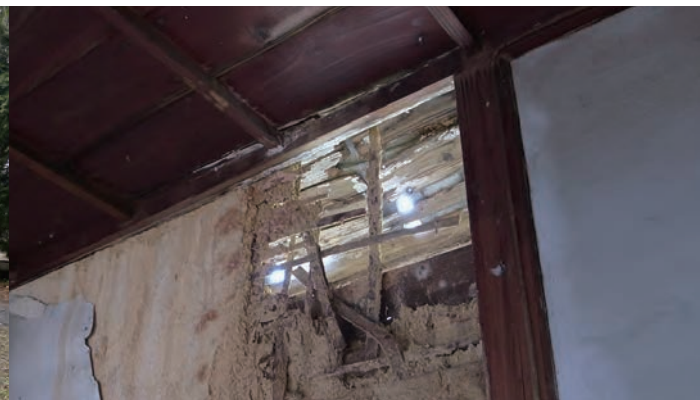
現在、長島愛生園に残されている「十坪住宅」には、ハンセン病隔離政策の過酷な歴史やその中で生き抜いてきた入所者の姿が凝縮されています。

2001年の熊本地裁判決で国の法的責任を認めてから18年が経つ現在、ハンセン病について知らない若者が増えており、ハンセン病問題に対する理解が十分広まっているとはいえない状況です。

岡山県には、県内にかつてのハンセン病療養所が2つも存在しているにもかかわらず、ハンセン病や療養所のことに関心がある人が多いとはいえない状況です。その一方で、現在は入所者の高齢化が進み、我が国の世界にも例をみない過酷なハンセン病隔離政策の歴史、及び、その中で生き抜いてきた方々の姿を後世に語り継いでいくことが必要となっています。



十坪住宅「徳島路太利」の外観



特に損傷が深刻な屋根部分

負の遺産、入所者の生の証としての保存。

「ゆいの会」は、決して繰り返してはならない隔離と差別の歴史を、後世に語り継いでいくために、入所者との交流、ハンセン病問題についての啓発活動、そして、隔離と差別の歴史を示す歴史遺産として、長島愛生園内に5棟残存している「十坪住宅」の修復・保存活動を行っています。

十坪住宅を保存するに当たっては、岡山県立朝日高校、学校法人山陽学園山陽女子高校の生徒による保存活動啓発募金活動、学校法人加計学園岡山理大付属専門学校の学生が、設計図や入所者の証言に基づき実物の30分の1の「十坪住宅」(梅香)の模型を作製し、同園に寄贈するなどの活動を行いました。

私達は、この十坪住宅の保存の意義として「①負の遺産」「②入所者の生の証」の2つを挙げています。

①の「負の遺産」は、アウシュビッツ強制収容所、広島原爆ドームと同じく、ハンセン病隔離政策という人権侵害の歴史を記憶にとどめる建物としての保存を意味するものです。

②の「生の証」については、強制隔離政策の下で、入所者自らの手で住宅を増築するなどして改善を加え、生きてきた証の側面もあるということです。

岡山県、そして日本の新しい人権を考える場所としての保存を私達は後世に引き継ぎ、しっかりと歴史認識を行い、未来へと繋いでいく「場所」としての機能を活かすために保存活動を進めていきます。

十坪住宅保存のために。

長島愛生園にある5棟の十坪住宅、「梅ヶ香」「第4千代田」「母の家」「第2兵庫」「徳島路太利」のうち、「徳島路太利」の修復保存のための工事を実施する予定です。特に、同住宅の屋根の損傷が深刻であり、それによって、住宅内部の風雨による損傷も深刻化しています。そこで、住宅のこれ以上の損傷を防ぐため、一刻も早く屋根の修復を行い、風雨から住宅を守りたいと考えています。

そして、修復工事に当たっては、学生の参加を目指します。十坪住宅の修復工事に参加することで、ハンセン病問題について理解を深めてもらい、また参加した学生から、ハンセン病問題に対する理解が広まることを期待しています。

岡山に住んでいる私たちだからこそ、今、できることがある。是非とも、ご協力下さい。

この事業をご覧いただき、誠にありがとうございます。十坪住宅は、ハンセン病患者の強制隔離政策という、我が国の歴史でも類を見ない過酷な人権侵害の歴史を後世に伝える象徴的な建築物であるとともに、そのような過酷な状況の中で入所者が生きていたという証でもあります。

「徳島路太利」のある長島愛生園は、全国で初めての国立ハンセン病療養所です。十坪住宅は損傷が激しくなっており、このままでは失われてしまいます。是非とも、二度と同じような人権侵害が繰り返されないよう、十坪住宅を後世に残していくために、一人でも多くの皆様のご協力を頂きたいと思っています。宜しくお願いいたします。

現金・郵便振替・クレジット決済 対応！

ご寄付のプランと特典

- 1) 1,000 円プラン
お礼状、報告書
- 2) 3,000 円プラン
お礼状、報告書、養成講座
- 3) 5,000 円プラン
お礼状、報告書、養成講座、イベント招待
- 4) 10,000 円プラン
お礼状、報告書、養成講座、イベント招待、愛生園見学、修復事業名簿掲載



MOTION GALLERY
クラウドファンディング・プラットフォーム



クレジット決済はこちら
<https://motion-gallery.net/projects/yuinokai2019>

寄付金の使途について

今回いただいた寄付金は、「徳島路太利」の屋根修復費用として使用させていただきます。

想定されるリスクとチャレンジ

目標金額に達できなかった場合は、事業を縮小して実施可能な事業を行います。また、街頭募金なども検討しています。

プロジェクト実施団体

名称：ハンセンボランティア「ゆいの会」

代表：会長 近藤 剛

設立：2004年3月31日

実施団体の詳細は公益事業コミュニティサイトCANPANをご覧ください。

「ハンセンボランティアゆいの会」でインターネット検索！



子どもから
お年寄りまで
神楽にふれる！

備中神楽

プログラムづくりプロジェクト

目標 500,000 円

特定非営利活動法人
吉備野工房ちみち

備中神楽という昔からある文化の継承をしていくことで、地域のつながりや愛着を深めていきます。その備中神楽に子どもからお年寄りまでふれやすいプログラム開発を行います！

地域社会の分断。

横のつながりがゆるやかに減少している。

戦後の高度経済成長期で大きく変化した価値観・生活スタイルは、2000年代に入ってさらに変化しました。ITの普及により、様々な国や地域の人とつながることができる一方で、自分と同類の人とだけの交流が密になり、自分の世界に閉じこもるという矛盾を生む結果となっています。

特に、地域社会での繋がりは希薄になりつつあり、新興住宅地などでは過去からの地域の記憶を共有することが難しくなっています。これは普段の生活では見えにくい問題ですが、昨年の西日本豪雨災害を経験した今、あらためて地域の繋がりの重要性が再認識されていると感じています。

つながりを復活させ、地域を元気にする「郷土芸能 備中神楽」を広く認知してもらい、郷土芸能が持つ役割を活かす。

2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県では、地域文化の一つである「伝統芸能」の復活が早い地域ほど、災害からの復興に向けた事業の合意形成が早いという傾向がありました。つまり「郷土芸能」などの地域に根付いた文化芸術は、人と人をつなげる役割を持っているのです。その役割は目に見えるものではありませんが、大勢の人の心をつなげる力を持っています。また、芸能が続いていくことによって、地域の文化や歴史を引き継ぎ、郷土愛や意識形成能力を育む役割も担っています。

岡山には郷土芸能として備中神楽があります。国と岡山県の重要無形民俗文化財である備中神楽は、老若男女、子どもからお年寄りまで楽しむことができる郷土芸能です。

「神人和楽(しんじんわらく)」という言葉通り、古来から我々日本人は、神と人がともに和することや楽しむ文化を形成してきました。

そして、神楽には神様の存在や自然をおのずから畏れ敬う心が生まれ、日々の振る舞いを振り返り、他者をおもいやするという、我々が大切にしてきた精神性そのものです。

しかし、残念ながらその知名度は高いとは言えない状態です。この備中神楽をより現代社会に合った形で市民の皆さんと共有し、楽しめる場を作っていくことで地域のつながりを復活させ、元気づけていきたいと考えています。

備中神楽を広め、触れる機会をつくるプログラムづくり。

備中神楽の社中も岡山県内にたくさんあり、いろいろなプログラムが各々の伝承する形で舞われています。その実態について調査を実施し、実現可能なプログラムをつくっていきます！

調査について

研究文献を読み、岡山県内の社中にヒアリングを行い、現在の備中神楽の実態(社中数、演者数、演目など)を調べていきます。参加可能なプログラムを積極的にPRすることで触れる機会をつくるとともに、既存のプログラムを参考に、より参加しやすいプログラムを開発します。



神楽グッズ作成ワークショップの様子



備中神楽ワークショップの様子

◆ 初めての方向けプログラムの開発

解説やワークショップ付きのプログラム開発を行います。今回のプロジェクトで、実際にワークショップを行い、時間や内容など検討しプログラム開発を行います。

◆ 子ども向けプログラムの開発

小学生や子ども向けに実際に体を動かすプログラム作りを行います。また、小学校や学童保育などに既存の団体や今回開発のプログラムの情報提供を行い、出前講座などプログラム実施の機会をつくっていきます。

◆ 情報発信

プログラム開発や各団体の活動情報などをまとめた、「神楽のいろは」として初心者向けの定期配布物を作成し、公演スケジュールとともに配布し、神楽を見に来てもらう機会を増やします。

地域文化芸術「備中神楽」を通じて、他の芸術ともつながることができる「ひろば」をつくる。

今回のプロジェクトを通じて、日常に当たり前に伝統文化がある状況をつくっていききたいと思っています。

また、地域の文化芸術を入り口にして、様々なジャンルの文化や伝統芸能に関わることができる「ひろば」を目指します。

地域を知ることで郷土への愛着や誇り、連帯感を育てます。また、他分野の人とのかかわりの中で、自分とは違うものを受け入れることを学ぶことで、多様性を受け入れる心を育てます。

今回のプロジェクトで情報発信やプログラム開発を行うことでふれあう場としての機会を増やしていくとともに、将来的にはゲストハウスやシェアハウスを連携して、いつでも文化芸術、伝統芸能に触れ、交流できる「ひろば」をつくっていききたいと思います。

文化芸術による地域創生と、日本文化の発信。

地域社会との繋がりが薄く感じられる昨今、地域のアイデンティティとなり、心の拠り所となりえる備中神楽のその高い芸術性としての存在意義の他にも、地域の社交の場として、学びの場として、地域社会の相互扶助の役割を果たす意義が大きい郷土芸能です。

備中神楽に触れる機会をつくっていくことは、ほかの伝統芸能や文化芸術にも応用していくことができていると思っています。

日常の様々な機会に、人とふれること、芸術とふれることで豊かな地域にするとともに、いろいろな地域や国の人が岡山、備中に来た時には文化に触れられるようにしていきたいと思っています。

皆さんの心の中にある「お互いさま」や「ありがとう」という感謝の気持ちが溢れる日常をつくっていききたいと思っています！

応援よろしくお願いします。

現金・郵便振替・クレジット決済 対応！



MOTION GALLERY
クラウドファンディング・プラットフォーム

◆ ご寄付のプランと特典

1) 1,000円プラン

報告書メール送付

2) 3,000円プラン

報告書メール送付、ワークショップ招待（1枚）

3) 5,000円プラン

報告書メール送付、ワークショップ招待（1枚）、衣装を着て写真撮影

4) 10,000円プラン

報告書メール送付、ワークショップ招待（1枚）、神楽解説小冊子1冊

5) 15,000円プラン

報告書メール送付、ワークショップ招待（2枚）、神楽解説小冊子1冊



クレジット決済はこちら
<https://motion-gallery.net/projects/bichukagura>

◆ 寄付金の使途について

今回いただいた寄付金は、下記内容に使用させていただきます。

- ・調査や情報発信（季刊誌等）にかかる印刷費や交通費
- ・プログラム開発のためのワークショップ費用
- ・子どもワークショップ用の扇子等の備品

◆ 想定されるリスクとチャレンジ

チャレンジ 今回のプロジェクトで、プログラム開発に必要な資金を集め、神楽が身近にある状況をつくります。また、より多くの支援を得られた場合には、神楽にふれる場としてのゲストハウス修繕費用にあてていきたいと思っています。

リスク プロジェクトが実施できないリスクはありませんが、予定の資金が集まらない場合は、ワークショップの回数を減らしたり、印刷物を減らしたりすることで対応していき、必ずプロジェクトは実施します！

◆ プロジェクト実施団体

名称：特定非営利活動法人吉備野工房ちみち

代表：理事長 加藤 せい子 プロジェクト実施担当者：今野 友紀

設立：2007年4月3日

実施団体の詳細は公益事業コミュニティサイトCANPANをご覧ください。
「CANPAN ちみち」でインターネット検索！



●「割り勘」とは？

事業指定助成プログラム、通称「割り勘」とは、寄付を原資とした助成事業です。NPO・市民団体等が取り組む事業内容を社会に発信し、事業への賛同者を募ることで、「寄付により資金集めを支援する地域版クラウドファンディング」です。



● ご寄付の方法

クレジット決済

モーションギャラリーのウェブサイト内からクレジット決済にて寄付をすることができます。

<https://motion-gallery.net/curators/mintuku>

モーションギャラリー みんつく

検索

郵便振替

本カタログに挟み込んでいるものをご使用いただくか、事務局及び申請団体へ連絡いただき振替用紙を受け取ってください。

現金

説明会の会場やみんつく財団事務所で受付しております。事務局までお問い合わせください。

● ご寄付をいただいた後の流れ

- 1) ご寄付をいただきましたら、入金確認後、電子メールにてお礼と受付確認の連絡をさせていただきます。
- 2) 募集期間終了後、助成金額が確定（1カ月程度見込み）したのち、領収書及び助成結果通知を送らせていただきます。
※領収書は、未発行の場合のみ発送させていただきます。
※モーションギャラリー経由（クレジット）の場合は領収書は発行されません。
- 3) 助成時に、各団体へ寄付者名簿をお渡しし、事業実施後、事業報告が各団体より行われます。みんなでつくる財団おokayまのウェブサイトでも事業結果をご報告いたします。

Q. 目標金額に達さなかった場合はどうなりますか？

集まった金額で助成（資金提供）を行います（当法人の運営経費5%＋システム利用料を差し引いた額）。提案事業の目的に沿ったものを、事業規模の縮小もしくは他の資金を充当することにより実施できるものを選定しております。詳しくはウェブサイトの募集要項をご覧ください。

Q. 逆に、期間内に目標金額を超えたらどうなりますか？

目標額を超えて集まった金額も含めて助成し、提案事業の発展に活用していただきます。

Q. 目標金額はどのようにして決まっていますか？

事業提案者の申請額に、当法人の運営手数料（助成額の5%＋システム利用時はシステム利用料）を加えたものになっています。



みんなの何とかしたいを カタチにする仕組み。

みんなでつくる財団おokayま、通称「みんつく」は、530名以上の方からの寄付4,133千円をもとに設立した「みんなの何とかしたいをカタチにする」市民コミュニティ財団（公益財団法人）です。「つなぐ、つたえる、シェアをする」をキーワードに、広く多くの人に知ってもらいながら資金を集める地域版クラウドファンディング「割り勘」、個人でも少額から基金を設置できる「冠基金」などの仕組みを提供しています。ヒト・モノ・カネ・情報の資源循環を通じて、社会課題の解決を進め「安心で持続可能な地域社会の実現」を目指しています。



公益財団法人

みんなでつくる財団おokayま

☎ 086-239-0329

✉ info@mintuku.jp

💻 www.mintuku.jp

みんつく財団

検索



岡山市北区奉還町三丁目15-8 奉還町第一ビル第11号
寄付の相談や、講演依頼も気軽にご連絡ください